

第189回国会 我が国及び国際社会の平和安全法制に関する特別委員会 第15号
平成二十七年九月二日（水曜日）

○白眞勲君

今回の法案に関して、劣化ウラン弾の輸送についてちょっとお聞きしたいと思うんですね。

中谷大臣は、八月三日の当委員会で、共産党の井上委員、こうお聞きになっているんですね、井上議員が。アメリカから依頼をされれば、劣化ウラン弾も日本は輸送することができるのかと聞かれたわけですけれども、八月三日に大臣はこうお答えになっています。我が国としては、保有したことがない弾薬でありますので、劣化ウラン弾の輸送の安全性については承知していないために、現時点において、他国の劣化ウラン弾を自衛隊が輸送することができるかどうか、確定的に申し上げることはできませんと答弁されました。ところが、この件について、今度は八月十一日、当委員会、大塚耕平議員への答弁で、こう答弁されているんですね。劣化ウラン弾を運ぶとなりますと、相当自衛隊、危険でありますので、事実、そういったものは運ばないという前提の輸送支援になるということでございます。これ、答弁変わっているんですよ。最初は確定的でない、八日後には運ばない。

この答弁、もう一つあるんですね、二つ矛盾な点があるんですね。もう一回指摘させていただきますと、八月三日では安全性については承知していないという答弁が、八月十一日には相当自衛隊、危険でありますと言っているんですよ。それともう一点、八月三日は劣化ウラン弾を運べるかどうか確定的に申し上げられないと言っていたのが、八月十一日には当然運ばないに変わっちゃったんです、これ。この二つの答弁、全く正反対の答弁ですよ。これ、何で変わったんでしょうか。

○国務大臣（中谷元君）

運ばないということについては一貫性があると思いますが、この劣化ウラン弾についても、そもそも我が国はこれを保有したことがなくて、その取扱いについての知見等を有していないものである以上、今後とも保有する予定もございません。

したがって、他国のクラスター弾また劣化ウラン弾を自衛隊が輸送することは想定をしていないということでございます、運ぶことに関しては想定をしていないということでございます。

○白眞勲君

いや、それは八月十一日の答弁をそのままなぞただけでして、何で変わったんですかと。確定的に申し上げられないとおっしゃっているんです、八月三日には。つまり、そこから違うんですよ。

つまり、この辺がどうして、確定的に申し上げられないというところから、運ばないというふうに変ったのか、それをお聞きしているんですよ。確定的に申し上げられないから、何で当然運ばないに変わってきたんでしょうか。

○国務大臣（中谷元君）

るる政府の考え方、これ質問を受けて述べてきたつもりでございます、この劣化ウラン弾につきましては、今お答えをしたとおり、そもそも我が国はこれを保有をしたことがなく、その取扱いについても知見を有していないということである以上、今後とも保有する予定もないということで、自衛隊が輸送することを想定していないということでございます。

それぞれの御質問に際して政府の考え方を述べたつもりでございます。

○白眞勲君

いや、全然私の質問に答えていらっしやらないんですよ。それぞれの質問に対して、それぞれ変わった答弁されたら困っちゃうんですね。

確定的に申し上げられないから、運ばないというふうになったその理由は何ですかということ、それともう一つは、安全性については承知していないということから、相当自衛隊、危険でありますというふうに変った、その二つの理由を教えてください。もう一回お聞きします。

○国務大臣（中谷元君）

今お答えしたとおり、これまでも劣化ウラン弾は自衛隊は保有したこともございませぬし、その取扱いについての知見、これを有していないわけでございます。また、今後とも全くそういったことも考えていないということで、自衛隊が劣化ウラン弾を輸送するということは想定しないということでございます。

○委員長（鴻池祥肇君）

どうぞ質問を続けてください。

○白眞勲君

是非、答弁が変わっていることは、もう大臣、お分かりいただけると思うんですよ。分かっているのに、何で最後の八月十一日の答弁しか言わないんですか。

もう一回聞いていきますよ、私。

二つあると言っているんです。相当自衛隊、危険でありますというふうに言った前には、安全性については承知していないとおっしゃっているんですよ。違うじゃありませんか、これ。そして、確定的に申し上げられないと言った後は、当然運ばないに変わってきている。この二つの答弁について、これ、どうなっているんですかということなんですよ。

○国務大臣（中谷元君）

その安全性を承知していないということは、これまで保有したこともないし、また取扱いについての知見も有していないというようなことで、安全性は承知していないということでございます。（発言する者あり）

○委員長（鴻池祥肇君）

速記を止めてください。

〔速記中止〕

○委員長（鴻池祥肇君）

速記を起こしてください。

○国務大臣（中谷元君）

最初の質問に関しましては、これ、突然の質問でございました。

クラスター弾につきましては、藤田委員と私は、クラスター弾の条約、これ、廃止条約、日本は締結しましたけれども、自民党の側としては、私、中心的にこれの推進を努めた人物でありまして、この危険性につきましては従前から知っておりますし、また非人道性、これも知っておりますので、藤田議員らとともに、このクラスター条約、これを国会で批准することに私は行動いたしました。

そういう意味で安全性のことについて言及をいたしました。その後、防衛省内でもいろいろ整理をいたしまして、その後、答弁をしたように、これまで保有したことがない、また、その知見も有していないということで、今後とも保有する予定もないし、また、輸送することは想定していないというようなことで答弁をいたしているわけでございます。

○白眞勲君

私、今、井上議員はちゃんと事前通告されたということらしいですよ。それが突然の御質問ですがというのは、ちょっとそれは失礼なんじゃないんでしょうか。もう一回、それはきちっと御答弁願いたいと思います。

○国務大臣（中谷元君）

この点につきまして、クラスター弾につきましての私の知見を申し述べたわけでございます。劣化ウラン弾につきましては、私の所見、また考えを述べたわけでございます。井上議員が事前に通告をしていただいたということでございましたら、その点はおわびをいたして訂正をいたしたいと思います。

○白眞勲君

ちょっと一回、今までの防衛大臣の御答弁を整理させていただきますと、要は、八月三日の委員会で劣化ウラン弾を輸送できるのかということについて確定的に申し上げられないというのは、その時点から、そういうふうにはそのときは答えたけれども、その後、整理をして、そして防衛省で整理をしたと今おっしゃいましたね、その後、防衛省で整理をして八月十一日の答弁になったんだということによろしゅうございますか。ちょっと確認なんですけれども。

○国務大臣（中谷元君）

累次御質問をいただきまして、その都度答弁させていただいておりますけれども、八月の十一日、また二十六日ですか、そして本日答弁をしたとおりでございます。

○白眞勲君

そうしますと、またちょっと矛盾が出てくるんですね。

この八月の二十六日にこうおっしゃっているんですよ、防衛大臣は。他国のクラスター弾、また劣化ウラン弾を自衛隊が輸送するということは想定をしております、このような大量破壊兵器などの輸送を行わないことは当然でありまして、そうした現実に考えられないことまでを全て法律に規定する必要はないと考えておりますというふうにおっしゃっているわけなんです。

つまり、現実に考えてないならば、考えられないことであるならば、八月三日の時点で現実には考えられないんだから、当然これはあり得ないというふうに言わなきゃいけなかったんじゃないんでしょうか。今は、八月三日から、今の御答弁では、その後検討を重ねてと言うんだけれども、だって、法文上にはあり得ないことだから書かなかったんだと言ったら、最初から、現実に八月三日の時点でももうあり得ないということになるんじゃないんでしょうか。この今の御答弁、矛盾しませんか。どうなんですか。

○国務大臣（中谷元君）

八月三日の時点におきましてはその安全性を承知していないということで、これを運ぶことについては否定的な考えを述べたわけですが、その後、部内でこの答弁等も調整をした結果、事実として、我が国はこれを保有したことがない、また取扱いについても知見を有していないということで、この劣化ウラン弾を自衛隊が輸送することは想定していないということでございます。

○白眞勲君

いや、ですから、これは矛盾していると私は申し上げているじゃありませんか。

つまり、二十六日には現実に考えられないと言っているんですよ、劣化ウラン弾運ぶこと自体を。何で、八月三日にそれだったら確定的には申し上げられないと言うんですか。現実的に考えられないことが、なぜ八月三日の時点では確定的に申し上げられないとおっしゃっているんですかと、その矛盾がおかしいんじゃないんですかと言っているんです、私は。

もう一回お答えください。分かっているでしょう、その矛盾なことは。

○国務大臣（中谷元君）

八月三日の時点では安全性を承知していないということでございますが、その後も質問をいただきまして、確認をした結果、やはり安全性にも問題がありますし、またまた、その知見も有していないということで、想定、輸送することは想定していないとお答えをしたわけでございます。

○白眞勲君

つまり、そうすると、三日の答弁、撤回されなきゃおかしくなるんですよ。確定的に申し上げられないということ自体おかしいじゃないですか。

だって、その後なんですよ、もうこんなものはあり得ないんだ、あり得ないから最初から書かなかったんだと言っているのにもかわらず、八月三日は確定的に申し上げられないと言っているんだから、矛盾しているんですから。どっちか撤回しなきゃいけなくなりますよ、大臣。

○国務大臣（中谷元君）

三日の時点では安全性を承知していないということで確定的に申し上げられないと申し上げましたが、その後、検討、確認をした結果、自衛隊が輸送することは想定していないと。その理由といたしましては、これを保有もしておりませんし、知見も有していないというようなことで、まさにその安全上の理由もありまして輸送することは想定していないということでございます。

○白眞勲君

いや、とても矛盾しているんですけれども。

ここで、もう一度、八月十一日の当委員会の大塚耕平氏への答弁で、大臣こう答えているんですよ。劣化ウラン弾を運ぶとなりますと、相当自衛隊、危険でありますので、それは当然運ばないということで相手先とも協議をしておりますと答弁されました。

ここでお聞きいたします。この協議は、いつどこで誰と協議をしているのでしょうか。

○国務大臣（中谷元君）

これは、劣化ウラン弾について保有をしていないというような認識におきまして、これまで日米間でも協議をしておりますけれども、そういう中で我が国の考え方を伝えていることがあるということでございます。

○白眞勲君

いや、ちょっと私、もう一回聞きますよ。これ、「当然運ばないということで相手先とも協議をしております」なんですよ。現在進行形なんですね。だから、これ輸送対象から除外する旨の、するための調整を日米間で行っているということじゃありませんか、これは。

協議をしている、その、いつどこで誰と協議をしているのか、それをもう一度お答えください。

○国務大臣（中谷元君）

現時点におきまして、クラスター弾にしても劣化ウラン弾にしても、現実に我が国に輸送をしてくれというような事実はないということでございます。（発言する者あり）

○委員長（鴻池祥肇君）

質問が継続できるようでしたら、質問を継続してください。

○白眞勲君

じゃ、もう一回、明確に聞きます。

いつどこで誰と協議をしているのか、協議をしておりますとおっしゃったんですから、当然どこかの、対象がありますよね。いつどこで誰と協議をしているのか、それをお答えください。

○国務大臣（中谷元君）

この意味につきましては、当然我が国としては、劣化ウラン弾とかクラスター弾、こういうものは運ばないということでありますので、そういうことにつきまして協議はしてきていないということございまして、この協議をしておりますのでということにつきましては、非常にこの点におきまして不正確な私の答弁であったということでございます。（発言する者あり）

○委員長（鴻池祥肇君）

速記止めて。

〔速記中止〕

○委員長（鴻池祥肇君）

速記を起こしてください。

○国務大臣（中谷元君）

日米間におきましては、日米協力ということでいろんな協議もいたしておりますが、法案等の中身等につきましても協議はしたことはございますが、一つ一つ、この劣化ウランを明示して協議をしたことはないということで、包括的には、包括的にはやっておりますけれども、一つ一つということでお話をしたということはないという意味でございます。（発言する者あり）

○委員長（鴻池祥肇君）

速記を止めてください。

〔速記中止〕

○委員長（鴻池祥肇君）

速記を起こしてください。

○国務大臣（中谷元君）

不正確に捉えられかねないという発言の意味は、まず、法案の中身について包括的にはお話をいたしておりました。この不正確というのは、劣化ウラン弾について、一つとして協議をしていなかったということでございます。

○白眞勲君

今、大臣、私たちが何か不正確なようなことを言われちゃったら、それはちょっとおかしいんじゃないでしょうか。私はただ聞いているだけでして。

ちょっとその辺をもう一回、じゃ、答弁してくださいよ。

○国務大臣（中谷元君）

私が答弁をした意味は、法案の中身について包括的に議論はいたしましたけれども、劣化ウラン弾について、のことについては話してはいなかったという意味で不正確であったということでございます。

○白眞勲君

そうしますと、この議事録を見ますと、いいですか、これ、ちゃんと読みます、僕。「劣化ウラン弾を運ぶとなりますと、相当自衛隊、危険でありますので、これは当然運ばないということ」と、「これは」は、当然これは劣化ウラン弾は運ばないということと相手先とも協議をしておりますと言っているわけなんですよ。

だから、今の御答弁ですと、包括的に劣化ウラン弾はやっていないと言ったら、これはおかしい、虚偽答弁になりますよ、これ。どうなんですか。

○国務大臣（中谷元君）

包括的な議論はいたしております。

劣化ウラン弾につきましては、数年前に日本で米国の劣化ウラン弾は全廃をいたしておりますので、それ以降、我が国としては輸送もしていないというようなこととございますが、いずれにしましても、法案の中身につきましては包括的に話をしているということとございます。（発言する者あり）

○委員長（鴻池祥肇君）

速記を止めてください。

〔速記中止〕

○委員長（鴻池祥肇君）

じゃ、速記を起こしてください。

○国務大臣（中谷元君）

劣化ウラン弾のことにつきましては、日本は国内的に持っていないという話でございまして、その点におきましては、アメリカがという部分につきましては訂正をさせていただきます。（発言する者あり）

○委員長（鴻池祥肇君）

中谷大臣。

○国務大臣（中谷元君）

その上でございますが、これまで日米間で包括的に法案の話をいたしております。その際に、この大量破壊兵器などの輸送を行わないということは当然のことであるということで確認をいたしまして、そういう認識の話はいたしましたが、クラスター弾において個別にお話をしたということは、あっ、訂正します、劣化ウラン弾について個別にお話をしたということはないということでございます。

○白眞勲君

ということは、これ今の私が申し上げた、何度も何度も申し上げるのはあれですけども、これは当然運ばないということで、つまり、劣化ウラン弾は当然運ばないということは相手先と協議をしておりますのでというのは虚偽ということでよろしゅうございますね。

○国務大臣（中谷元君）

包括的な話として、全体的に大量破壊兵器などの輸送を行わないという話はいたしましたが、この劣化ウラン弾につきましては個々に挙げていなかったわけでありまして、そういう点におきましては不正確であったということでございます。

○白眞勲君

今、不正確という言葉がありました。ということは、これは議事録訂正ということで、撤回するということでよろしいですね。

○国務大臣（中谷元君）

包括的に法案の話の中で大量破壊兵器などの輸送を行わないということは当然であるという確認はいたしておりますが、そういう認識の下で発言をいたしまして、その劣化ウラン弾について個々に挙げたことはないという意味におきましては不正確と取られるかもしれませんが、全体としましては大量破壊兵器などの輸送は行わないということは確認をいたしております。（発言する者あり）

○委員長（鴻池祥肇君）

速記を止めてください。

〔速記中止〕

○委員長（鴻池祥肇君）

じゃ、速記を起こしてください。

○国務大臣（中谷元君）

劣化ウラン弾については名前を挙げて協議はしておりませんので、この点につきましては撤回をさせていただき、また理事会で御協議をいただきたいと思っております。
（発言する者あり）

この点につきましては撤回をいたしまして、修正をさせていただきたいと思っております。

○委員長（鴻池祥肇君）

ちょっと待ってください。白君、ちょっと待ってください。

ただいまの大臣の発言につきまして、議事録の件に関しては正確な答弁ではございませんけれども、後の理事会で協議をして、その訂正等を含めて皆さん方にお諮りしたいということをご申上げておきたいと思っております。

○白眞勲君

委員長、ありがとうございます。

まさにこれ、非常に大きな部分なんです。これ、自衛隊員の命も懸かってくる部分ですよ。それについて非常に誤った答弁をされているということになりますと、これ大変な大きな私は問題であるというふうに思います。

ということで、是非理事会で御協議をお願いを私からもしたいと思います。

○委員長（鴻池祥肇君）

ただいまの件は、今申し上げましたとおり、後の理事会で協議をすることをいたします、お諮りいたします。

午前の質疑につきましてはこの程度にとどめたいと思っております。

午後一時まで休憩いたします。

午前十一時五十一分休憩